ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。本博覧会は、旧上瀬谷通信施設の南東側約100haを活用するものであり、この大部分が本博覧会の終了後には都市公園として継承される予定です。

さらに、令和５年２月には上記の基本計画をより具体化し、「地区全体で目指す姿」をメッセージとして示すことで、より良い土地利用を誘導することを目的に、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート」が策定されるとともに、旧上瀬谷通信施設の「観光・賑わい地区」において、「テーマパークを核とした複合的な集客施設」の立地を目指し、事業者の公募が開始、同年９月に事業予定者が決定されました。今後は横浜市と事業予定者が連携して計画を具体化することで、着実に事業が推進される予定です。

図４　「観光・賑わい地区」事業コンセプト
※事業予定者の提案概要

５．GREEN×EXPO 2027における取組

博覧会協会では、令和５年１月に、博覧会開催に必要な事業及びその方針を示した「２０２７年国際園芸博覧会基本計画（以下、

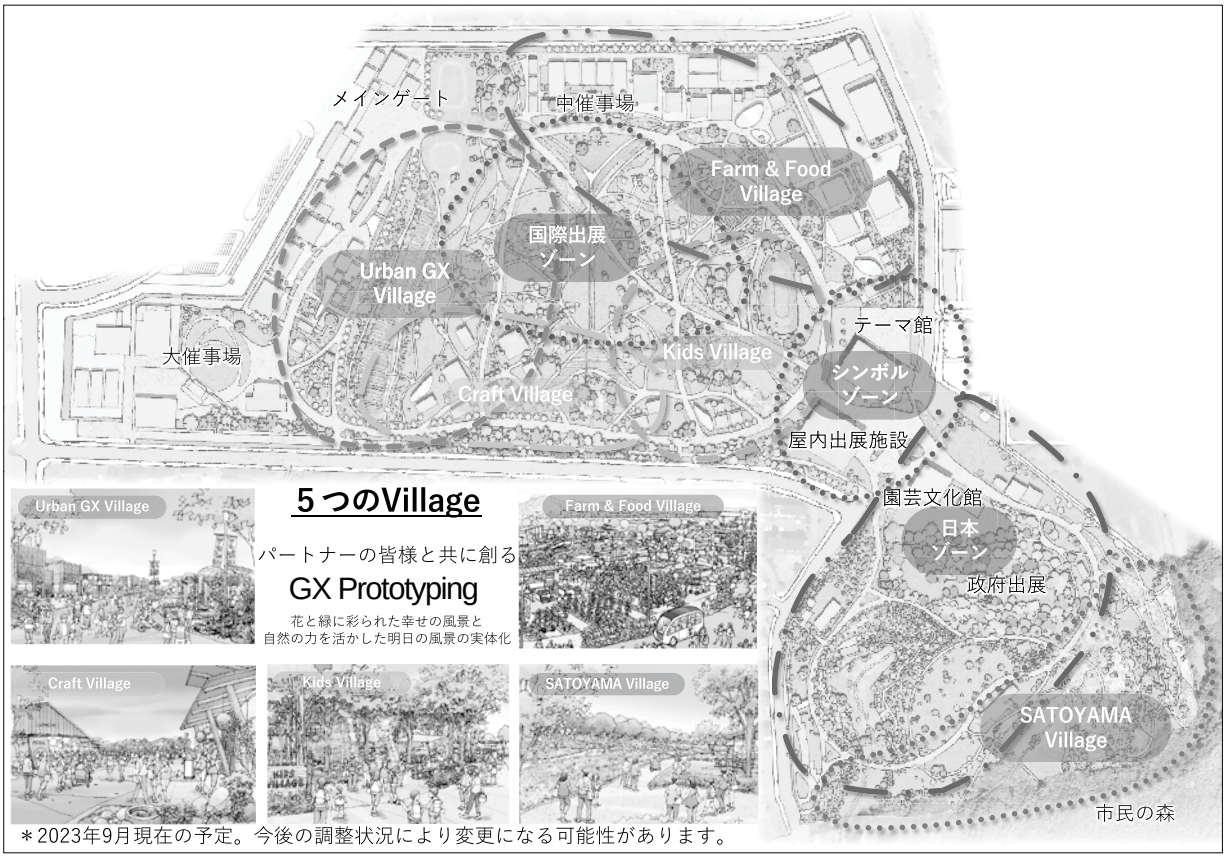

図５　本博覧会の会場計画

基本計画)」を策定・公表し、会場計画や機運醸成等の各事業を推進しています。

⑴　会場計画

本博覧会の会場は、上瀬谷に残された貴重な自然資本と、自然特性をいかす「Nature-based Design＝ありのままの自然環境を活用したデザイン」という考え方に基づいて会場の基盤を造り、国産木材を出来るだけ使用しながら、環境負荷低減、資材有効活用を目指したGREENサーキュラー建築を導入していきます。

また会場内には、本博覧会の骨格となる３つの「ゾーン」と、独自の取組となるテーマ共創事業として５つの「Village」を設け、開催者と参加者がテーマを共有しながら､「幸せを創る明日の風景」の創出に取り組みます。

①　Urban GX Village

GXが実現する未来都市の風景を提案します。カーボンニュートラルを中心に、自然の力を社会課題解決に活かす技術(NbS)を世界に発信します。

②　Farm & Food Village

食と農が連携し、共存する「さと」の風景を提案します。心身が満たされ、健康であること。その豊かさを実感できるコンテンツを集積します。

③　Craft Village

土地に寄り添いながら多様な生業を生み出してきた日本の叡智を継承。自然と共存しつつ、新たな産業を生み出す未来の田園風景を提案します。

④　Kids Village

次代を担う子どもたちが自然と親しみ、楽しみながら学ぶことができるコンテンツを集積、誰もが笑顔になれる風景を提案します。

⑤　SATOYAMA Village

市民の森と美しい花を背景に、生物多様性や都市と農村の連携をテーマにした学びのプログラムを提供する、新たな里山の風景を提案します。

⑵　機運醸成等

１）開催1,500日前記者発表会

博覧会協会では、本博覧会の開催1,500日前を迎えるに当たり、令和５年２月８日に記者発表会を開催しました。記者発表会では、正式略称、本博覧会の活動を牽引する推進体制の発表等が行われました。

①正式略称「GREEN×EXPO 2027」

「植物」、「花」、「緑」を総称する言葉であり、「自然」、「環境にやさしい」という意味を持つ「GREEN」、国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会「EXPO」という語を掛け合わせることで、SDGsやGX（グリーントランスフォーメーション）の実現に貢献する博覧会として、これからの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場であることを表現するものとして、「GREEN×EXPO 2027」を正式略称とすることが発表されました。

②推進体制「GREEN×EXPOラボ」

本博覧会の開催に向けて加速化する活動を牽引していく推進体制「GREEN×EXPOラボ（創生組織)」の発足が発表されました。また、涌井史郎様（チェアパーソン)、隈研吾様（マスターアーキテクト)、賀来宏和様（農＆園藝チーフコーディネーター）及び若松浩文様（運営事業チーフディレクター）がラボメン

バーとして就任することが発表されました。さらに、本博覧会の屋内展示企画・キービジュアルを担当するクリエイターとして、蜷川実花様の就任も発表されました。

２）関係閣僚会議の開催

政府は、令和５年４月に第１回の「2027年国際園芸博覧会関係閣僚会議」を開催しました。岸田総理が出席され、本博覧会の成功に向け、関係閣僚で一丸となるとともに、オールジャパンで連携し、開催準備に万全を期すことが指示されました。また、本博覧会のシンボルとなる公式ロゴマークについても、関係閣僚会議において公表されました。

さらに、同年８月には第２回の関係閣僚会議を開催し、本博覧会の円滑な準備及び運営に関する施策の推進を図るための「基本方針」及び本博覧会開催の効果を向上させるための「関連事業計画」が決定されました。

３）公式アンバサダーの就任

博覧会協会は令和５年９月19日に公式アンバサダー就任記者発表会を開催し、俳優の芦田愛菜様が就任することが発表されました。公式アンバサダーの就任に際しては芦田様より、本博覧会が国や業種、世代を超えた方々が一丸となって地球の未来のために植物や自然の力を最大限に考え、その技術や美を世界に発信していくとともに、本博覧会を通じ、全ての生命は植物を中心につながっていること、そしてその植物の計り知れない能力と生命力を私たちが理解していくことが、メインテーマである「幸せを創る明日の風景」につながる旨のコメントをいただきました。

４）共創キックオフ・ミーティング開催

令和５年９月26日に、博覧会協会は横浜市及び横浜商工会議所と共催で、企業、地方公共団体、花みどり関係団体等の皆様に向けて、本博覧会が目指すビジョンや共創の姿を共有し、対話を通じた出展や協賛等を具現化する「共創キックオフ・ミーティ

図６　本博覧会の参加メニュー

ング」を開催しました。当日は650名を超える多くの方にご参加いただき、本博覧会における出展や協賛等の参加メニューや今後のスケジュールについて発表、本博覧会のテーマである「幸せを創る明日の風景」を共に創るための参画をお願いしました。各参加メニューの詳細について、博覧会協会のホームページ等において順次お知らせする予定です。

６．おわりに

本博覧会の開催まで約３年となり、開催者である博覧会協会をはじめ、国、地元自治体及び経済界などが連携し、開会に向けた準備を進めています。多様な分野、主体との連携のもと本博覧会を創り上げていきたいと考えておりますので、是非皆様にもご参画いただければと考えております。

また、博覧会後に整備される都市公園をはじめ、旧上瀬谷通信施設全体のまちづくりにもご関心を寄せていただけますと幸いです。